峰ハ日の出ころ霧そはし川霧 照肯

ぬれしめの仏もたるまゝうめ柳 楓妹

鶯や聲ハまきちるかの中をわたり 文志

うくひすの沙汰するうちにあるかな 椿月

識おとしまふる秋のやましきの春 柏年

出てしれハ沙んの登るや末の月 楓巌

輪のきらきや麻てのもりしの露のさえ 素舟

蚕の子の庵のけさま柳のかな 永曉

妙なりしまきえなに白や称これ春 夕六 椿里

やくらの風時かへすやまかはくの春 金砂

子もちまひとり狂ひや根付まつり 宗邑

福まめやまのふ拾ひし庭の画 施遊

まきるや小雛のあそひしほし 華 楳雄

頗まつ西も春御やちはし光 嵐翠

賞まやのひろまゝ小ま ハ 義引

とる秋子添ふりある庵や まゝ光ちら 金水

ふく紫やちりし行れの秋のうち 丹之

杖拾雲うちまとけれは川月鮎 杵風

らあるやゝのて小豆の花あらり 宗月

那田もも筆たしやかきれ七はる 若石

出限したる囲ひこの灯このけこの春 子青

青海苔や頬の外のハなきみ限り 其原

返ハ来てこのま傘やたはの西 所耕

輪のきらきのこのけ流きまぬや水 其友

え通る灯ハ涼しこのちはの月 華徳

成のまる